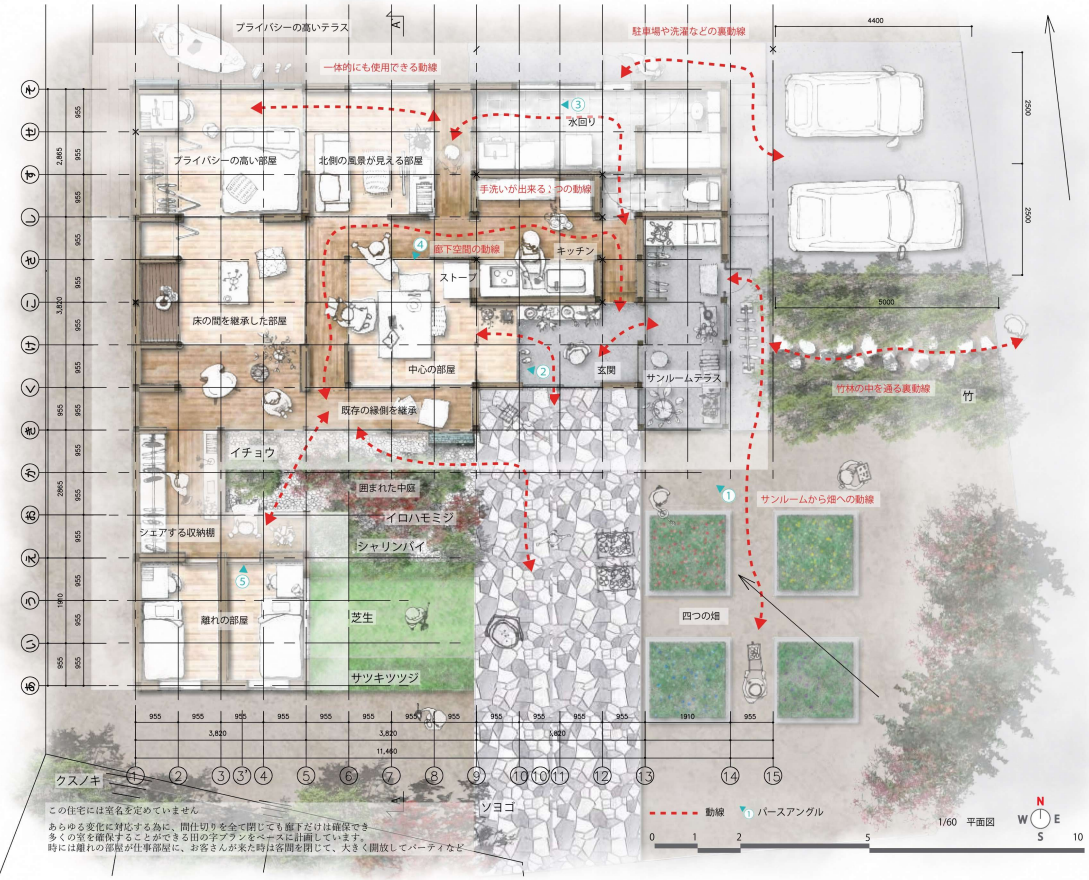
柔軟な家　ー田の字リバイバルー

人々は都市に出向き娯楽や仕事などの時間を過ごし、住宅は家族で寛ぐ生活の場として、場所の定義が固定化していました。
しかしコロナウイルスによって、テレワークやリモート飲みなど、場所の定義を見直すキッカケになり、住宅には社会状況や場所の概念に対応できる柔軟性が必要と考えています。
そこで、かつて冠婚葬祭なども住宅の内で催されたほど柔軟に姿を変える、日本住宅の田の字プランを現代の生活に対応させた＂変化に対応する柔軟な家＂をコンセプトとし、
コロナ禍は終息しても、家族構成が変化しても、予測できない変化が起きても柔軟にその姿を変える住宅「柔軟な家 ー田の字リバイバルー」で提案します。

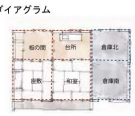
敷地面積	587.96 m²
1 階床面積	121.10m²
屋根裏面積	18.16m²
増築面積合計	39.21m²



この住宅には室名を定めていません

あらゆる変化に対応する為に、間仕切りを全て閉じても廊下だけは確保でき、
多くの室を確保することができる田の字プランをベースに計画しています。
時には離れの部屋が仕事部屋に、お客さんが来た時は客間を閉じて、大きく開放してパーティなど

ダイアグラム



①既存

伝統的な田の字プラン
4 室を開放した大空間
として使用できる一方、
廊下動線がないために
プライバシーを確保し
づらい

②改修後Ａ

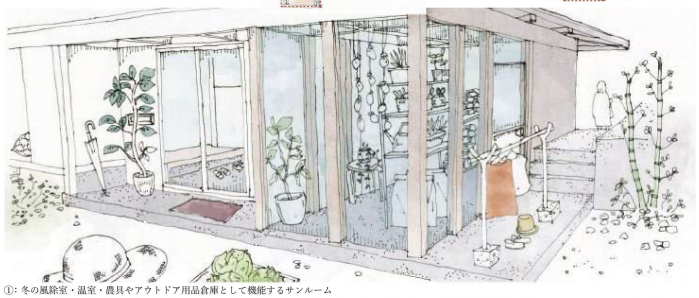
子供の小さいうちは
寝室を大きく取り皆で
寝る。離れは仕事室と
して集中できる空間へ

③改修後Ｂ

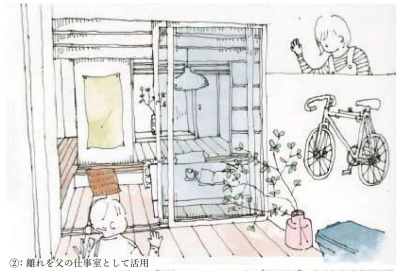
離れを子供部屋へ変更
床の間のある室はＷＥＢ
会議にも適した仕事室と
なる。気の知れた友人は
食事室兼来客間へ通す

④改修後Ｃ

子供が成長したら間仕切り
を設ける。寝室は独立させ
夫婦水入らずの時間を過ご
せるように。広縁つきの
豊かな客間となる



①：冬の風除室・温室・農具やアウトドア用品倉庫として機能するサンルーム



②：離れを父の仕事室として活用

④：食事の間から屋根裏の仕事スペースを見上げる / 広縁と客間の間に揺らぐ奥さんお手製のタペストリー

③：寝室の奥まで視線が抜け、窓からは一面に山・川を臨む

⑤：ご近所さんを迎え入れる土間・前室

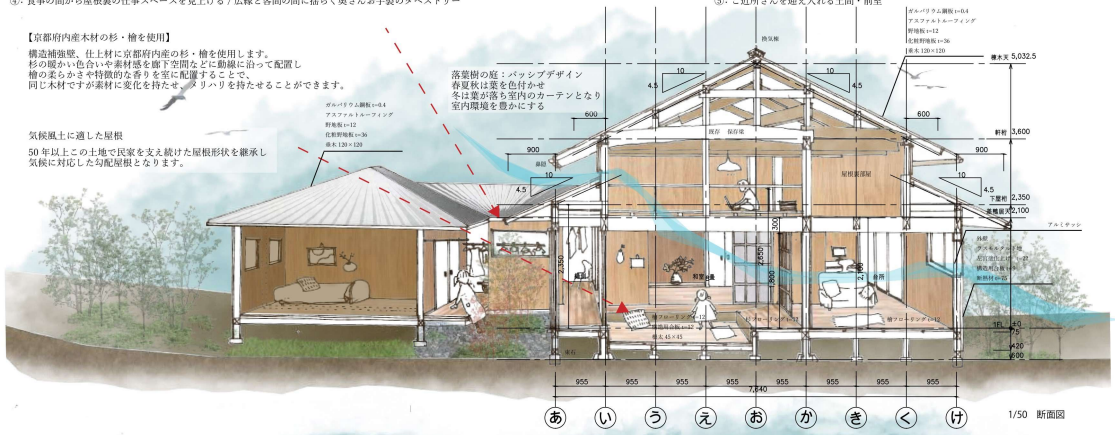
【京都府内産木材の杉・檜を使用】

構造補強壁、仕上材に京都府内産の杉・檜を使用します。
杉の暖かい色合いや素材感を廊下空間などに動線に沿って配置し
檜の柔らかさや特徴的な香りを室に配置することで、
同じ木材ですが素材に変化を持たせ、メリハリを持たせることができます。

気候風土に適した屋根

50 年以上この土地で民家を支え続けた屋根形状を継承し
気候に対応した勾配屋根となります。

落葉樹の庭：パッシブデザイン
春夏秋は葉を色付かせ
冬は葉が落ち室内のカーテンとなり
室内環境を豊かにする



1/50　断面図

1/100　東立面図

1/100　南立面図